

會との競争といふ國家的對立を、議論の奥底に持つて居るんだ。あの無政府主義といふのは、支那よりもはるかに下等野蛮な政府を持つてゐた露西亞特有の畑から出來た、極めて出來の悪い芋だ。猶太人でもなく露助でもない日本人には、日本人特有の主義がなければならぬ。非國家主義でも、無政府主義でもないことは云ふまでが野暮だ。日本で社會主義といへば當然國家主義でなければならぬ。お互の日本國が大切お互に七千萬同胞が悉く幸福で、心配のないやうな國家組織に、造り替へたいと云ふのが、純正社會主義、則ち純正國家主義なのだ。

それぢや、今の政府の役人達や、學者政治ゴロ共の云ふ國家主義と何所が違ふと云ふだろう。異うさ、大異ひ！月とスツボン、星と螢の異ひだ。月と星は天上に光るものだ。スツボンはまんまるでも泥の虫、螢は尻ビカの小動物だ、これが同じで何とする。

今の權力階級の奴等の云ふ國家主義は、自分等だけの利益のために、日本國も他の七千萬同胞も、甘く喰つてやれ、なめ廻してやれと云ふ鬼の念佛だ。念佛を百萬遍唱へたからつて鬼はやつぱり鬼さ——朝から夜中まで汗みどろに働きづめても貧乏に先を越される國民、過勞から病氣になつても藥代